

人道法が結んだ子どもたちの絆 ～小学校と中学校との交流学習が劇で結実～

平成 23 年 11 月 12 日、大阪府阪南市立桃の木台小学校の保護者対象の学習発表会で、6 年生の児童による「温かさと希望を届けたい～占領軍司令官 ビクター・デルノア～」と題した劇が披露されました。この劇の上演のきっかけは、約 2 年前の青少年赤十字指導者対象の中央講習会にまで遡ります。

劇の上演にいたるまで

平成 21 年度、日赤本社主催の青少年赤十字指導者中央講習会では、国際人道法を学ぶ初の EHL コースが実施されました。その際の受講者の二人が、大阪府阪南市立桃の木台小学校の永田恵教諭と、広島県広島市立吉島中学校の田村真一教諭でした。研修会の終わりのワークショップで参加者は、国際人道法に関する指導案を作成。桃の木台小では EHL の事例を活用した子ども達による劇が企画、実施され、吉島中では EHL の指導案が策定、実施されました¹。

その後、吉島中学校では全校の取り組みとして EHL が実施されています²。その中で吉島中学校では、田村教諭が中心となって、原爆投下直後の長崎で占領軍司令官を務めたビクター・デルノア³をテーマに“人道的な行動”を学ぶ指導案が作成、展開されました。中央講習会の際の結びつきを通じて永田教諭もこれを知り、このビクター・デルノアをテーマにした国際人道法の学習が、桃の木台小学校でも行われることになりました。



学習発表会が行われた桃の木台小体育館
開校 16 年目のまだ若い小学校です。



構内の掲示版

¹ 詳細は本ホームページ「学校教育と国際人道法」の「小学校・中学校での実践例（指導情報 No.159 より）」をご覧ください

² 詳細は本ホームページ「学校教育と国際人道法」の「EHL 生徒に浸透する国際人道法」をご覧ください

³ 原爆投下直後に長崎に占領軍司令官として赴任したデルノアはその惨状を目にし、司令官としての立場に苦悩しながらも被爆地長崎での第 1 回長崎平和記念式典の挙行を長崎市に許可したり、被爆者の手記の出版を上層部に申請したりして、原爆の被害の大きさ、恐ろしさをアメリカ、世界に伝えることに尽力しました。

桃の木台小での取り組みの内容

劇の実施までには次のような学習計画が策定されました。

【取り組みの流れ】

1. ヒロシマについての調べ学習
2. 国語「平和のとりでを築く」
3. 10月8日（土）吉島中学校の皆さんと「人道交流会」
 - 「原爆の子の像」
 - 平和公園でのフィールドワーク
 - 平和記念資料館見学
 - 聞き取り学習
 - 袋町小学校見学
4. 修学旅行報告会
5. EHL の実施
 - 人間の尊厳とは？
 - 国際人道法を知る。
 - ヨーロッパ戦線でデルノアの見たもの。
 - 長崎に着任したデルノアの苦悩を知る。
 - デルノアのとった行動とデルノアの思いを知る。
6. 劇「温かさと希望を届けたい～占領軍司令官 ビクター・デルノア～」

劇には6年生の児童75人全員が出演、台本にも75人分の台詞が用意されています。劇はデルノアをテーマとしているものの、吉島中学校の生徒との交流の場面から始まり、配役として吉島中の生徒も登場。原爆の威力や、当時の広島で救護活動にあたった赤十字国際委員会のマルセル・ジュノー博士のエピソードなど、保護者が見守る中、広島について、平和について、吉島中学校の生徒たちとの交流の中で児童が学んだことが、演技を通して表現されました。



—わたしたちにできることは何かを考えて行動せなあかな—（劇の一場面）

劇の上演を終えて

〔児童の声〕

…デルノアは『人道』という言葉の意味について私たちに教えてくれているような人だと思いました。正義、勝敗に関係なくたくさんの命が失われている、消えていっているということに対してその原因である原爆を使ってはいけないと後世に訴え続けていくことがどれほど大切かを劇を終えて気づきました。私たちが『人道観』に満ちた人になれば後世に伝えていくことができる。そうすればいつか平和な世界が訪れる日がくるとわかりました。

…EHLの学習をして原爆がどんなにいけないものかなどたくさんのが分かりました。「核兵器をなくしてほしい」その思いは世界中どこへ行っても同じことを思っている人はいると思います。だから日本は、原爆を落とされて自力で復興したわけではなく、原爆を落としたアメリカのデルノアも日本が復興するのに立ちあがってくれたことを忘れてはいけないと思います。

〔保護者の声〕

…異常な時代の中で司令官という立場にあって、本当の正義、心の強さと優しさを持ち地位をなげうってでも行動したビクター・デルノアという人物がいたということを知ることができ、たいへん意味のある良い劇だったと思います。大きな歴史の中で埋もれて分からなくなっている一人の勇気、この真実を知った時、子どもも劇を見た人も心を動かされたと思います。6年生が意義のあるすばらしい劇を演じることができて良かったと思います。忘れずにいてほしいです。

…子どもたちに良い勉強の機会を与えてくれた吉島中学校のみなさん、先生等に感謝します。

…今回の劇を見て、ビクター・デルノアのことを知り、その「人道的な行動」に感動しました。「戦争」を違った方向から見ることができ本当によい勉強になりました。子どもたちにもビクター・デルノアのような正義感の強い、そして勇気を持ってまちがったことに対して「ノー」と言える強い心を持ってほしいと思いました。子どもたちも修学旅行に参加していろいろな勉強をして成長したなど感動しました。



平和記念公園で桃の木台小の児童を案内する吉島中の生徒

人道法が結んだ生徒たちの絆

桃の木台小学校との交流を終えた吉島中学校3年の草薙由愛さんは、桃の木台小学校あての手紙の中で、学んだことを次のように語りました。

…戦争は、例外なく尊い人命を奪い去り、人間の尊厳を傷つけてしまいます。広島の場合もそう、長崎の場合も同じです。人を敬い、そして人を愛することのできる私達人類は、同時に、同胞を殺め傷つけてしまう哀しい側面も持ち合わせているのです。でも、こんな風に考えると、本当に悲しくなってしまう。

そんな時私を勇気づけ、もう一度希望の灯を心に点してくれたのが、中学校に入学して出会った〈国際人道法〉であり、桃の木台小学校の皆さんもよくご存知のテキスト〈人道法の探究（EHL）〉でした。…（中略）…

もしも、ずっと昔に国際人道法のようなものが存在していて、人類がもっともっと早い段階に、そして頻繁に「命と尊厳の大切さ」を考える機会に恵まれていたらならば、私は、原爆は決して投下されることはなかったと信じています。人類の歴史の中で、長崎と広島は、決して記録されることさえなかったでしょう。

今回、桃の木台小学校6年生の皆さんが、デルノアさんについて劇化上演されると伺い、私達（桃の木台小&吉島中）の営みが、決してあの一日だけで終わっていなかったことを知り、とても勇気づけられました。とても嬉しかったです。ただ、皆さんの演じるデルノアさんの劇を、観ることができないことが悔やまれます。（抜粋）

最後に、“デルノアさんへのメッセージ”として

デルノアさん、あなたが心から願っていた〈温かさと希望を届けたい〉という想いは、今や、私やたくさんの吉島中学校の仲間の中に、そして、あなたのことを世界で初めて劇に仕立てた、桃の木台小学校の6年生の幼き勇者達の心の中に、しっかりと息づいています。（抜粋）

人道法が子どもたちの心の中に灯火を、そして子どもたちの間に絆を育んでいます。



平和記念公園での桃の木台小と吉島中の交流の様子